



熊本県議会議員

高島和男がゆく

令和7年2月号



新春の集い

1月25日は地元、2月1日は地域・企業・各種団体等を対象とした「新春の集い」を開催しました。以下はその際の挨拶です。

昨年は世界73国で大統領選挙や国政選挙が行われた選挙イヤーでした。またわが国はじめ先進各国では政治の基盤が大きく揺らぎました。加えて私たちの地方議会関係者に激震が走ったのは、東京都知事選を皮切りとした兵庫、名古屋の首長選です。SNSを駆使した手法が結果に大きな影響を与えたことはご存知の通りです。従来の常識を破る勢力が陰謀めいた声を拡散させることで、ネット上は真偽が定かでない情報に溢れ修羅場と化しました。まさに敵と味方をはっきりさせるアメリカ型の分断を煽る選挙の到来を感じさせました。

本来、選挙は政党や候補者が、掲げる政策や自らの資質を有権者に問いかけ、有権者がその良し悪しを判断していました。ところが今、国民の間には良し悪しを判断する手段だったはずのテレビを見ない、新聞を読まない人が急増しています。新たな法律も制定されるでしょうが、SNSがこれからの大型選挙、とりわ

け都市部における結果により影響を与えることになるでしょう。なぜならその背景に多くの国民が既存の政党やメディア、私を含めた政治家に対して不信感を抱いているからです。

近年国政では裏金問題や特定の団体と近い距離にある多くの議員の存在が明らかになりました。また私どもの熊本県議会も県民市民の皆さんが眉をひそめる事案がありました。改めてお詫び申し上げます。しかし政治に対する国民・県民の不信は実は昨日・今日始まったわけではありません。

私が初めて市会議員に立候補を決意した2002年、地域を回っていた際、高齢の男性から「お前たちは選挙の時しか」と強い口調で言われました。

また別の方からは「政治不信の根源は議員が普段何をしているのかわからないことだ」との指摘も受けました。そこで私は当時まだ今のように普及していませんでしたがネット上に自らのホームページを開設し、日々の活動や県

政・市政に対する考えや思いを綴ったブログ（日記）をフェイスブックやLINEを含めて今日まで23年間、毎日更新・発信し続けています。また県議になってからは広報誌を毎月制作・配布、月初めには動画も配信しています

（裏面下のQRコードを読み取るか、『高島和男』で検索してご覧ください）。

それもこれも初めて立候補したときのご指摘が私の原点であり、『政治の見える化』こそが政治不信の軽減に繋がると信じているからです。

失われた30年：様々なデータがこの国が衰退途上にあることを示し、国民の多くが子供や孫の時代、この国は一体どうなっているのだろうという不安を抱えています。将来世代に私たちのツケを残してはいけません。私自身、政界の末端にありますが、引き続き今の政治のあり様、物事の進め方に果たして本当にこれでいいのかという問題意識を持って臨みます。

今年も県政はもとより地域はじめあらゆる立場の皆さんの声に耳をすませて真摯に取り組んでまいりますので変わらぬ叱咤激励を賜りますようお願い申し上げます。



地元の新年会にて

1月は年の初めということで各校区や企業、各種団体の新年会にお招きいただきました。

以下は1月5日、田迎校区・各種団体役員
の新年会での私の挨拶です。



常日頃から校区内の子どもたちの安心・安全はじめ、イベント等を通して住民の皆さんの住み良い環境作りにご自身の貴重な時間を割いて献身的に取り組んでいただいていることに敬意と感謝を申し上げます。

正月三ヶ日、私は大好きな駅伝三昧でした。特に箱根駅伝の往路、3区を走った地元の託麻中学校卒業の鶴川正也選手の力走に釘付けになりました。

鶴川選手は託麻中を卒業後、九州学院に進学、全国高校駅伝で花の1区を制して成り物入りで青山学院大学に進学しました。しかし3年間、故障続きでなかなかメンバーに選出されませんでした。それが最終学年の4年生になってから見事復活を遂げ、出雲、全日本大学駅伝では大車輪の活躍をし、箱根駅伝を楽しみに観戦したのでした。



私からすると立派な成績と思いますが、レース後の本人や原監督の話の聞いていますと、必ずしも納得のいくレースではなかったようです。しかし地元出身の若い選手の頑張りが多いの県民に感動と勇気を与えたことは間違いありません。

私も鶴川選手のラストスパート、歯を食いしばって懸命に走る姿をお手本に、県政はもとより地域の課題解消に取り組んで参ります。

熊本市消防出初め式にて

最大級の寒波が列島を覆う3連休の中日の1月12日、熊本市消防局・消防団が主催する出初め式に参加しました。会場の白川の河川敷は寒い中にもかかわらず、消防関係者、行政機関、多くの市民が集まりました。

開式直後、消防団の団員が自らの貴重な時間を割き、消火活動や災害対応に取り組んでいることを感じさせる『威風堂々』の分列行進が繰り広げられました。その姿勢は、まさに地域社会の守り手であり、火災や災害の危機に直面した際、即座に対応し、住民を守るために命をかける覚悟を持った方々であることが伝わってきました。どの隊列も力強く、一糸乱れぬ行進は消防団の団結力と誇りを感じさせました。

消防団の活動は、決して目立つものではありませんが、その裏には多大な努力と犠牲が伴います。地域社会の安全を守るために、どれほどの覚悟と努力を必要とするか、その大切さを改めて再確認した機会でした。私たち一人一人が消防団の活動を理解し、感謝の気持ちを持ち続けることが、より良い地域づくりに繋がると確信しています。

消防団の皆さんには日々の活動に心から感謝を申し上げ、願わくば今年が平穏な年であり、消防関係者の出番ができる限り少ないことを祈ったのでした。

